

国際シンポジウム

「氷期サイクルの謎にせまる－氷河時代の気候ダイナミクス－」を開催

本学21世紀 COE プログラム「太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学」は、11月13日(月)から15日(水)にわたり、シンポジオンホールにおいて、国際シンポジウム「氷期サイクルの謎にせまる－氷河時代の気候ダイナミクス－」を開催しました。

本シンポジウムは、氷床コア・堆積物コアを用いて地球の古環境を研究する観測的研究と、気候モデルによって気



シンポジウム発表者の集合写真

候のメカニズムを研究する気候モデル研究の二分野における国内外の著名な研究者が一堂に会する世界的にも珍しい試みでした。

1日目は、南極氷床コアについてジュゼール教授(フランス原子力委員会/国立科学研究センター)から包括的な報告がされるとともに、プロコペンコ サウスカロライナ大学特別研究員などからバイカル湖の堆積物コアによる研究結果が報告され、何万年前に遡って地球の気候を復元する試みについて活発な議論が行われました。

2日目以降は、真鍋淑郎本学客員教授から、気候の十万年周期と炭素循環が果たす役割が紹介されました。また、阿部彩子東京大学教授は、気候モデル内において大陸氷床の形成プロセスを示し、安成哲三本学地球水循環研究センター教授は、地球の軌道の変化に伴う気温と積雪の変化と、氷河期が生ずるプロセスについて発表しました。

何万年も前の気候を探る古気候の取り組みは、現在危惧される地球温暖化のメカニズムと密接な関係にあります。本シンポジウムは、こうした気候システムの理解に向けて観測と気候モデルの両分野が手を取り合って発展を目指す重要な契機となりました。

第23回、第24回防災アカデミーを開催

●災害対策室

第23回防災アカデミーが、10月16日(月)、環境総合館レクチャーホールにおいて開催されました。今回は、日本の耐震工学の第一人者として知られる岡田恒男東京大学名誉教授による「耐震補強のこれから」と題する講演が行われました。講演では、建物の地震被害の特徴、耐震基準の歴史の変遷、耐震化の現状、最新の耐震工法といった大変幅広い内容について解りやすい紹介があり、会場は97名もの参加者で満員となりました。

11月10日(金)には、第24回防災アカデミーが開催され、

中村豊東京工業大学客員教授・株式会社システムアンドデータリサーチ代表取締役による、「情報と地震防災」と題する講演が行われました。中村教授は、国鉄・JRで新幹線の地震警報システム開発を中心になって進められた方で、リアルタイム地震防災の世界的パイオニアとして知られています。講演には、企業などで地震情報を扱う仕事に従事している方が多数参加し、地震情報を社会に活かすためには何が重要なのか、という視点から、活発な質疑応答が行われました。この質疑応答は、多くの参加者にとっても大変有意義なものとなりました。

詳しくは、災害対策室ホームページ (<http://anshin.seis.nagoya-u.ac.jp/taisaku/>) をご覧ください。



講演する岡田東京大学名誉教授



講演する中村東京工業大学客員教授